

## オーストラリア 記録的な量のハニーゴールドマンゴーを収穫

[FreshPlaza](#) 2024年3月6日

### オーストラリアでは1月に記録的な量のハニーゴールドマンゴーを収穫

ハニーゴールドマンゴーの生産・出荷業者であるピニャータ農場は、1月の出荷量が43%増加し、過去最高であった2022-23年度シーズンに迫る出荷量でシーズンを終了した。ギャビン・スカー社長は、当初の予測では、主要な産地での不規則な寒波により冬の開花が不調であったため、不作の年になると予想していたと述べた。この予測は、オーストラリアのマンゴー業界の予測に即したものであった。(以下「」は同社長の発言)

しかし、北部準州のダーウィン、キャサリン、マタランカの各地域にあるピニャータの直営農場では、11月中旬から12月中旬にかけてまずまずの収穫量となり、クイーンズランド州の契約生産者らは1月の収穫が豊作となった。

「クイーンズランド州の最北部では2つのサイクロンと記録的な降雨にもかかわらず、同州の生産者らは不作になるという彼ら自身の予測を覆し、皆が豊作となった。中には、今までで最大の収穫量だった人もいた。サイクロンや洪水の影響を受けた地域の生産者らは、事前に綿密に計画されていた緊急時対応を実行した。彼らは病気の管理をしっかりと行い、必要以上に樹上に果実を残しておくリスクを避けた。」

マリーバ地区では、12月中旬から1月中旬にかけての正に収穫期に、年間平均降水量である900mmを上回る降雨があった。「気象条件により、複数の産地の収穫時期が重なった。マリーバ地区の生産者は収穫が遅くなり、グラッドストーン、バンダバーグの両地区及びクイーンズランド州南部の生産者は収穫が早まって、1月は非常に忙しくなった。最後のハニーゴールド品種は2月19日に収穫された。」

「これらの生産者の中には、2002年にハニーゴールド品種を手掛けて以来、弊社と契約している人もいる。彼らは、長年のマンゴー栽培の経験と品種に関する知識を活かして悪天候に対処した。」同社長はこの品種について、他の多くの品種よりも品質が安定しており、適応性が高いのが特徴であると述べた。

### 売り上げは2022-23年度を上回る

スカー氏は、市場に出回るマンゴーの量が少なかったため、クリスマス前の売上は素晴らしかったと述べた。1月には平均を下回る価格水準まで落ち込んだが、全体としては前シーズンを上回る平均価格となった。「全国の小売業の取引先が出荷シーズンを通しての果実の品質を賞賛してくれ、オーストラリア全土の消費者から素晴らしいフィードバックをいただいている。」

ピニャータ農場は、北部準州、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州、西オーストラリア州の約570ヘクタールの土地でハニーゴールドマンゴーを生産する約30の契約生産者のネットワークを有している。

同農場は、5月19日からケアンズ市で開催される毎年恒例のハニーゴールド会議で、今シーズンのハニーゴールド品種の成果を報告する。同会議では毎年、最優秀生産者が発表される。

執筆者: クレイトン・スワート